

新編江戶志

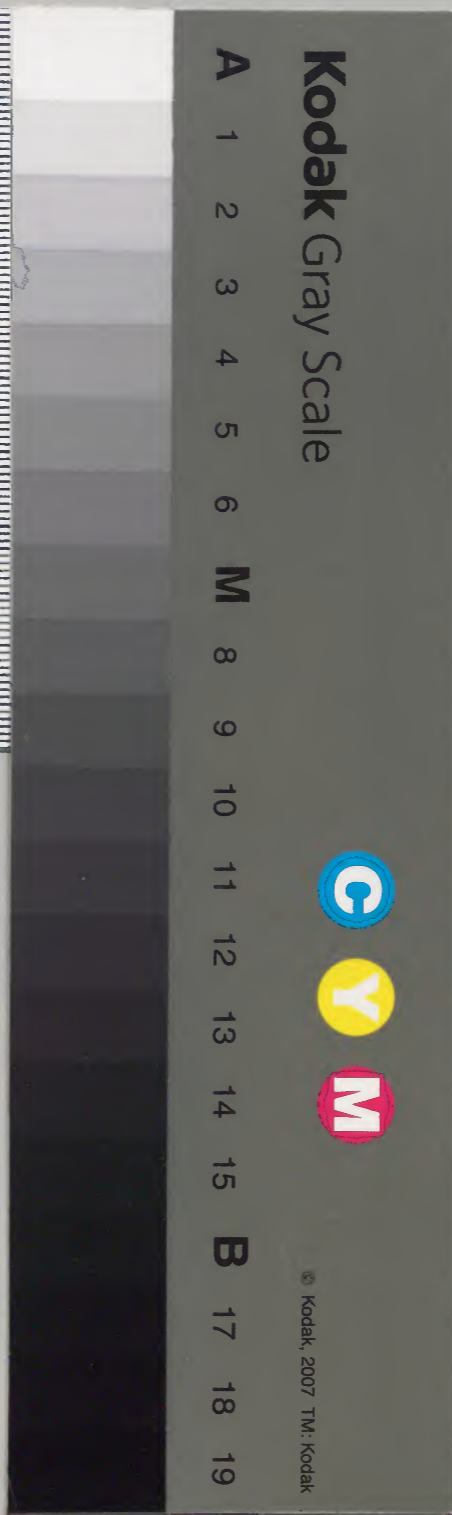
八

地
 農務省
 和圖書
 第六
 冊八共

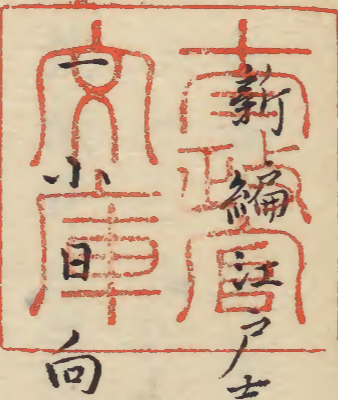
大臣官文庫
 和書門
 一
 一
 三
 〇
 八冊架函號

內閣文庫
 和
 一
 一
 三
 〇
 八冊架函號

同
 內閣文庫
 番號和 11130
 冊數 8 (8)
 函號 174 43



新編江戸志卷八目錄



一中之郷

石原牛島

明治七年

一 桺島

押上

一 龜戸

一 小梅

庵崎隅田川

新編江戸志卷之八

小日向

武蔵野路草三云小日向より西へ下りておれみし草九は袖
小玉の包ありて

ゆれ小多し袂志るらんをれまらる

ふ小日向の名らるるなり

江戸砂子徳吉世所ハ鶴子日向と云人地人断絶の後古
日向の次と云成いつの以。小日向と云多れと云抄多し
北設北多の南向東詠北条分限帳を引て小日向津三郎
同源正世所と任をりしゆれも小日向の地名久しき事
又名身津赤護小具津加賀守新宗武別小日向と云

其子甚十郎 文政四年生れと云れ、鶴高日向氏より
奉りての檀を志しり

○惠日山金剛寺

曹洞 吉祥寺末

上水端

寺傳云鎌倉右大将頼朝公尾別愛智山崎の陣所ニ於テ
天竺佛の地藏尊ヲ得テ 源家一統の祈誓言ニテ 天下
平定ニ後録倉田覺寺の後ニ安置す右大臣實朝波多野
中務太史忠經小倉一ノ寺成相別波多野庄田示村ニ建立
一ノ孤舟和尚ヲ為シ開山トテ後江戸下野入道心佛寺以
武別江戸小日向郷金板村ニ移シ文明年中太田左衛門太
史持資再興す永正六己巳年駒込吉祥寺洪別和尚の時
吉祥寺の末寺トシ中興開山天目中興普應國原ハトシ

今の開山の吉祥寺五世開山元照禪師ノト多シ

東鑑治永六年金剛寺住侶訃の年以記セリ今も尚寺小
寶朝の石碑あり 太田道灌の位牌あり 地蔵堂ハ山の
安道ニ

○宝福山龍閑寺

傳通院末

小宮向上水端

開山ノ蓮社定譽上人向西隨阿和尚寛永八年未年中
起立

○安國山慈寧寺

越前國府上堂為寺 上水端

開山通幼和尚

院江別

天正三年ニ下慈國開宗ニ移、其後
小府堂ニ移、江戸ニ移

○祿名寺

西

開山

一六百年の後醍醐女御安産座をりた依り子易の地を
そりしりしを及深倉尾將軍信仰多て兼久二度辰斗
七月十七日翌列よかろて法雨山慈恵寺を建立しけり依り
安置しりしを及元和年中より武別と傳ふ一後醍醐寺
小安室しりしを

○満藏院台賢寺

上野末 りり、谷

寺傳云同是春海俗名久米石と云と江別の者より
浅井備前守長政の家より浅井家より即入興の時お下
男七十五人の取入り元和元年天下太平即祈りのり湯殿
山十人の祈者なりを時りその地一之

崇源院殿即逝去の後也一七居宅を菴室とて一即

守りたるの文殊を安置す其後北南堂院殿の即用地り
よりより新く修代をあり住居り今の地と傳ふとあり

○花咲稻荷

○青竜山林泉寺

浅草白泉寺末 岩荷谷

○清水山源光寺

傳通院末 上水バク

○玉樹山良念寺

岩川 法傳寺末 小日向クニニ町下

開山 寛永七度午年起立地主御中間銀

○妙峯山徳雲寺

月在寺末 鎌倉日蓮寺池 りり、谷

開山一翁碩皆禪師 寛永七年起立

寺傳云古大木の椎の木より文録年中社造 御成り付椎寺

なりし 台年よりしりしを寺の名とせり 回録の後禱り

所々今三度と有り、毎年六月十八日観音懺法御行
あり

塔及常陸菴 永同菴 松老軒

○永昌山長壽寺 録倉建長寺志 同所

開山頂室摩大和尚

寺傳云岩屋弁天社あり弘法大師作古來小町極小石川
此の寺と云その事詳あり其境内小町極の古木有
その辯子なり寺傳之按云小町極之岩荷谷も多
く小日向と云あり長壽寺傳明寺ハ岩川と云石
り是ありて成ありと云

○宝光山妙行寺正智院 上野志 小石川ヨリニス町

寺傳云寛永二年起立元録五甲申年中兵衛基俊順法印

本尊阿弥陀 慈覺大師作 兼師堂昆シスカッ作

願満稻荷社 千休地藏 大除天満宮

縁起云菅相云御直亮の尊画之上古誰人の受事経る
と云し右大将頼朝公教祀あり其像ありそのく縁念
郎外より風火起りて殿内より是より一ふ云より其
人堂中に彫れありと云し一忽雨涼しと云し風火生じや
くに消滅す是より頼朝公大除天神宮と宗の事あり
此よりや皇初某氏の事より縁起あり皇初氏末輩武陽
城西に住り明暦三丁酉年正月十九日の火災と云りの縁
記焼失より奇あり此の時より縁起の中より此か

寛文十二年其の形氏未葉年八十集比今流の時親族
断後や一に依て杉原氏の系成傳元鑑六年十月十九日
正智院住僧并應其家よりむり世寺に安道す元流八
年四月止日出火祭して堂舎光りし其係の威徳
りて類焼とのくれぬそりたりの是験ありてり
あしと云

道祖神

上水ハタ 護門寺持

南向茶話云當社ハ明德比勸請之泉松山護門寺上青石
一勸修の碑文有其碑云

明德二年 道 十二月十九日

左ノ方道の一室有
右ノ方二字社の記有
修の文字ニ一しと云

求涼難記云面足尊惶根尊之常る在乃六天と云也

○金剛寺坂

金剛寺といふ曹洞禪林あり右ノ名あり

○新坂

金剛寺坂のたもと

江戸砂子といふ井坂と云と書ハ誤りて同書と坂の上杉原氏の屋
浦の中より兼平坂といふ大木あり依りて今井坂といふところ是に
兼平の所分の説也

南向茶話云世系金板と稱出世是徳右の旧名金曾木村と云
不と古河の方東長豊前山城を居候の所なりし其家傳
少を振出の小世系昔今井四郎兼平の宅地より兼平、極し
極由一兼平坂といふ大木あり又兼平勝為といふ跡守あり
るより一其豊前山城を同四郎の宅地を今井四郎と稱す
多り故に一豊前四郎一北条氏原の宅地と兼平の極送

られし射礼の返答彼等今も何れともし移れぬ所多く
振るといふ今井の振の赤坂子何れに下りて何れに
後本多飛騨守屋家なりといふ所なり

荒木坂

荒木氏中台に下りて今井今井

服部坂

服部氏代に居位に坂の名と云

大日坂

坂下の大日堂あり別當所是後と云

浅利坂

切支丹屋敷あり

切支丹坂

新坂の西に一名庚申坂又今井坂丹下坂と云

切支丹屋敷あり何れに切支丹坂といふ丹下坂といふ今井
伝来の屋敷ありといふ本名は庚申坂之坂の右の下り口古
木の根二株ありて字保比まや庚申の石碑をこの名あり

今に世名碑をこれに庚申坂の名故有人まれの物れとも相平大寺
以後の事なり庚申坂といふもよし也

再板江戸砂子に世名はけりしをありしより今も
為後いふといふありしを今も切支丹坂といふあり
と世説名の妄説に云けりしを恒々のその後より一十年と云
つとに説ゆきく

獄門橋

きりし丹后に茶のここのを

切支丹屋敷

切支丹坂のむら

むらに世名切支丹宗を入りて宰獄ありし頃の史考
の類はし今にたりし切支丹宗門傳の伝承とありて
後あり馬天連の墓にけりしとありしを無用のよ入る

紫衣

八雲宮石造古切立丹屋梁門前子今今角門、その
走子草生さくさくあり多敷と涌るあり令轍の考を
世石をいづく

高瀬屋敷

小日向巻切立丹中さくさくありの方とむうさ
瀬屋と云四年界の中さくさく一石走りの日やと云小日向
立巻揚りもあわのお屋さくさくこれ、秋初出の中さくさく別之

清水谷

茗荷谷

茗荷谷の白れ方秋りさくさく寸所の表之
丹坂下より西の谷落れ表の向ふの方とむう世おさくさく
茗荷と飾る丸のふ之無茶金板あり町とりさくさく

藤坂

茗荷坂

西得菴

藤坂 へんす町より 茗荷谷へ下の坂後寺の側丸の表有之
茗荷坂 中さくさく 小日向巻へのふの坂之丸は石田流落れ
惠中和尚の旧跡江戸砂子と東屋を亦とあれは之と記す是は
膝部坂の色さくさく今もさくさく流木昌三の遺跡と云恵中
初為住しそ後覚悟初為是も住し今もさくさくその跡のふ
さくさくのさくさく

江戸川橋

九丁目橋

古川橋

掃部橋

俗名掃部橋と云むう一休名跡蕎麦と云
言羽町九丁目へゆくさくさく
俗名掃部橋と云むう町より 大道所、さくさく
古川町より水乃所へ流さくさくけりさくさく
掃部と云掃部あり名と云

時雨毎苗より湧出するやうにさとのふるあし進士も
賜ふべきのし
上巻を依り候ふ今の竹島町に寔
を志すとい唐金の大金成りけしは源氏の水姓より
しるべしと云ふしこの冷所の井のあり候や湧出する
とそその寔を金にも分竹島町源氏の者なりをむ
りしるべしの寔たるはし崩すも不能湧入るの時の候
今よりと云

泉の井

小日向馬場東に源氏屋敷の門より元生節氏屋敷より

黄金水

同馬場の通を今に源氏屋敷の門に

江戸砂子よむむり石田道灌別館の用水よむり黄金水
け井と埋ししるべしの名も元を交る門止氏屋敷の末子
よ物語ありしよは源氏源氏の時源義家陣中の用あり
堀れししるべしと云

琵琶橋

小日向本法寺向の小路より竹島丁へかき下りしる石橋
むし源氏琵琶橋と云ふかき下りしる橋より源氏死
すありしるべしと云

白鳥池

南向茶話云江戸川中の橋の下に水曲流の平に姓古大源代
より白鳥池と号す埋れてその余池南の方久永氏の宅地よ

残れりとも

万年橋

金剛寺の前を中ノ橋へ出、下所為氏長尾の向を千代
斗の間石段に橋を架す、名を此と里談く

小日向馬場

貞享三宮年初下繁くとく吹上の橋を極、牛込別
下を此馬場と稱す、米涼雜記に云々

戀ヶ崎

一谷程々湯も、此川の程にむき、程とて佳火、
あれも葉影の場を、漢も、不能、大、
及程を多く、中ノ橋也

白堀

関口を、水戸の屋敷、入、
そ、不、

かや、劇、中ノ橋、立、

里傳、
流、

椎木屋鋪、立、

享保、
切、
炎、

○鏡翁山傳明寺

小日向金剛寺末

岩荷谷

加衣波衣掛棧

江戸所より係記を引て云 當寺の本尊野別足利何某
の家より夢想の事有りて武州豊後郡 園口と云
園口の住人松村氏も夢忌の事ありて字を来り
傍に云々 時着 たる加衣波衣の事ありて掛棧の掛
是より掛棧の事ありて云々 昔之と云々 勝部石見
守と云々 夢忌 一 此記を考辨 草庵と云々 是

不動坂

音羽町 上坂 下坂

道山幸神社

一谷照塚神社神主宮城嶋伊勢守

祭所 猿田彦太神也 相殿神 一座

求涼雜記曰祭神 猿田彦命 神社啓 夢水云 幸神者 猿

田彦命也 社傳曰 鎮座 年數 幾 歳と云々 事々云々
古老の傳に云 性古世所 廣原也 其時 鎌倉の 海道の 枝
路之 里人 皆世所 住居 人皆 長者の 鄭と 稱す 身
代も かくし 其性 名々 長者 金助と 鑄造し
是紙 納む 即ち 塚 築棧と 稱す 所々 猿田彦命を
安置す 幸神 奉り 崇敬 延宝の 比の 方々 黒駒 一 疋
耕也と 出く 疾走 里人 是紙 及々 好人 あり 人 是
と 遊し 時々 山谷 隠ん 其谷 号し 駒谷と 云々 又 橋の
上より 吾助の 形方 考ふ 方々 吾橋と 名付 駒塚 橋
と云 一 羽人 有り 此駒 道山 神社の 前々 宿伏と 名付 是
小より 黄金 助の 精と 云々 紙 納む 是 當社 神祇 海軍

出現して、蛸壳の神跡を以て、幣用祈祝又武
術君臣和合の祈願悉納受たるを、津木の槌之

椿山正八幡神社 滝泉山洞雲寺持 滝松庵

当社椿の名所也、今ハ古木枯レ朽此の所の石付り上
の宮也、江戸砂子ハ当社下の宮と云ふハ、語也、鎮座ハ
甚ク、年久シ、後天和二年二月十日神立宮城嶋政光等
葉妙灵ノ神像成安置ス如王黒石神号と次、我名を歌
刻レテ納む、後ト別當水神を奉祀、槌の所也

相殿神 妙見 氷神 本宮合テ五座也

稲荷本社、麓地際より、園口村百姓徳右衛門と云ふの先祖
祭之水神ハ祭神、園口村女命也、祭礼ハ上下宮陽年小神

樂あは

八幡神社 滝泉山 洞雲寺持 園口

下宮と云、園口水道町鎮守之古、園口村ト云、神是祭礼神主
宮城嶋氏奉仕ス

朧突坂 椿山と云、目白ノ上坂なり

大洗堰 上水の大堰之是なり、上水ト江ノ川ニ流流

上水

江戸砂子ハ楮頭沈ト云、為ル至テ、清浄潔以テ、早魁モ
河ノ水ハ、兼、近年中、江戸上水ヲ掛ル玉川ト云、是ハ
水多ク、世に河成先ト云、多摩郡ノ流テ大河なり
流ノ末ハ、六ツノ名、夫口傍ト云、川ト云

一孝中ノ記宣有云我地永代島ノ鎮座を一と致
慶ノ天皇をふむりぬ、依て一宇の宮殿設て正八幡宮
と勸請す同八年ノ亦再興なり、清神体ハ菅兼相の御
依て一性昔源三位頼政の守神あり其後ノ葉々ノ家
小教許あり亦之存小是利尊氏云子傳りてまより又
録倉の云方持氏云秘傳有りて菅原上校家子ノ家致し
之依又云田道灌ノ依りて傳りて依りて一ノと持受れり
孫教れりて傳りて下徳の咽と流在の不和光方派の大
為子依りて今計所ノ安運しよりぬ同二十七年癸未八月
十五日始り御祭れと存記いまりり、以事毎年の御祭れ
是れと云りて云云

江戸砂子磯石集ヲ引て云和列生駒無勒寺の岡山室山和尚
正保三年十八歳より一ノ永代寺周光阿闍梨の弟子となり
寛文四年椽八の夜室山和尚灵夢のより有り依り大徳
守ノ合群しりて不日して社成終す今此原川富園八幡宮
是也と云

木尊天地不動

寺傳ニ曰木尊不動明王ハ和列生駒山一ノ三礼の彫刻の者
依り天地不動と異りて也、昔年、色喜ノ謂ある事と云

- 当社四隅鎮守
- | | | | |
|------|----|--------|----|
| 惠比須社 | 七寅 | 摩利支天社 | 未申 |
| 荒神社 | 辰巳 | 大勝金剛ノ社 | 戌亥 |
- 社四社境内にありてあり五町三町の間にあり
- 寺中 功德院 多門院 吉祥院 大勝院 海岸院 愛染院

一之鳥居社より三田町西より社所小永代寺の函丈より社
を居より門前之町尾茶店多し蛇鱈規も尚木の名
産なり

正元稻荷社

一之鳥居の側

三十三間堂

八幡之東

本尊千手觀音

京都の大佛三十三間堂は福多初元ハ
浅草の元祿年中に地子福多

貞雄神再板江戸砂子云云京より堂の同鏡し京同田令
同のさういへば亦同書よりく元来京都の三十三間堂
と撞て東都より御秘名右のいれと定之永年中カ務所
る作由後形を浅草に移し堂屋敷地持所一堂全
成於元定永十九年壬午十二月乙右の堂建し方ハ城屋敷

なり枝木料常より故正保元年十月備後方より久松

酒一永代久松為堂多設り作所と之を後及し御

徳護科有依其上法大石云々も寄附金より作所建立と

一奉為しくと多し同書に宝曆十辰年回録同十四未年

先規の如く諸大名云々一勸進作所より再建なり明和

六七年大凡より特例今より再建なり

洲崎弁天

世出也天ト云 護持院未 別當海潮山増福寺吉福院

開基知足院隆光僧正字榮春河辺氏也慶安元己丑年二月

八日壬生元祿元年知足院に任し二年改題して神田橋より

護持院と号し舊芝若話云往古此社ハ島の中より何

と名社と云明し元祿年中深津八郎右門正隆

公命を得て深川より社洲邊築立り陸地とす
身は多し社洲島の中より凡そ余天より一社一原氏
命して毎天社とす之を云

貞雄神元録年中洲崎辺築立り伊奈守九郎源傳八
御右門内人子 命して是より見へり元録十二年辰年
二月二日の御日記より云 伊代官伊奈守九郎 御書院
右深川伊代伊奈守九郎 命して是より見へり
伊奈守九郎 御書院 伊奈守九郎 御書院

一明和六年より新設社傳不入陸と建初の事不詳
云一の事風京の事して安永の事いふ事云々
一西宮太神宮 坂別西宮より 系考

於六稻荷社 洲邊 社年 後源

元禄十三年洲邊築立り叶法身と云人曰元禄稲荷と
云と今送るて六稲荷と云り 末涼雜記に出

満穂稲荷社 深川九三町 別當 知光院

往古社地三坪あり故三坪稲荷と云其後全程の地
字所より満穂の文字は誤り

佐賀稻荷 深川佐賀町 別當 清光院

永代島 八幡の辺と云り云

越中島 永代島海平神原中宇後屋敷

木場 洲邊在東北の方江府村木向屋敷

貞雄神上代ハ今の佐賀町今川町の辺元木場也今残

小一彼の辺の坊は木場堀之を蔵本の寛文延宝年中
の國子安く見しより之は今の地は木場と稱せられたり
所家とたり

六万坪 十萬坪

木場の東の方江戸中埃迄を以て築立たる新地之

金園橋 木場より入船町へ迄

築嶋橋 木場より島田町へ

平野橋 入舟町へ久右門町へ

大栄橋 久永町へ石島町へ

潮見橋 三十三間堂へ入船町へ

崎河橋 久永町へ茂森町へ

斐世橋 森町へ茂森町へ 要橋 扇町へ青永町へ

蓬萊橋 永代寺門前海手 石崎橋 永代寺門前海手

坂田橋 始町 松島橋 始町

永居橋 永代寺門前海手 福永橋 嶋崎町

田中橋 富田町 豊島橋 西永代

亀久橋 亀久町 富岡橋 豊町へ平野町へ

青海橋 吉永町へ久永町へ 吉園橋 平野町へ吉永町へ

千島橋 松原町へ堀川町へ 相生橋 永居町へ万年町へ

緑橋 松原町へ岩町へ 新高橋 長井始町

万年橋 長三十三間 菊川橋 長井始町

福嶋橋 富久町七間 丸太橋 枝木町十間

八幡橋 北川町七間 元木橋 堀川町十五間
 海辺橋 伊勢崎町十六間 大嶋橋 越中富十五間
 大和橋 大和町十六間 森田橋 宮川町十六間
 松永橋 永堀町十間
 元木橋 佐賀町の辺むくの小場之
 妙圓寺旧地寺町の後口町屋
 仙臺堀 大川端上の橋の川之仙臺のやまき
 八幡堀 越中馬と大浜町との間の川あり大浜川より
 油堀 大川より下へ橋の堀之佐賀町
 中の橋 佐賀町大川より
 黒江川 川幅拾五間

小名木川 川より十間 佐賀よりありはと云
 貞雄云此より少くはと云佐賀より幸ゆり〜の〜平新を
 北延室八年の江戸古橋園より〜の〜はと云り

阿宅丸の舊地

新大橋の才一北手之世御船長サ之拾八間洞の間拾八九間あり
 一也也
 貞雄再板江戸砂子云阿宅丸と云御船は元来小田原の
 北条家の軍船と云橋本と云丸長サ三拾八間洞の間
 拾八九間あり由寛永十年御船多向井将監忠勝と作
 付れ相列云濟より江戸(涉取寺)同十二庚午六月
 忠勝の命ありれ 上受有〜と云和年中故有て六の

船中多し遊されし其處の傳説に船元伊豆國
下田浦よりちりちりたる如く船出たる毎に船の
自然と伊豆へゆくとありたるを人信し遊
し由風分とて世に傳へた時元祖より勅之御子天皇の
藤原が下りて江戸の邊へ引入しと傳へ
と云ふ

貞雄云阿宅丸多し由中より一ハ天和二年 乙戌九月十八日
小舟作舟小笠原丹後と後瑞流等日及右軍船
信月を向井將監より命有りしと傳日記に見
多し

船玉祠 伊船倉の内河水之礼の倉敷の内

紫神猿田彦命より阿宅丸の船玉改勸請也

高橋 長槍八間海邊大工町之邊其岸の高橋と云

六間堀 大川の東川を六間

神明宮 六間堀 別荘田 猿江 泉養寺茶室

慶長年中泉養寺用山本順法印の時鎮座なりと云

伊豫橋 長間 六間堀と云

貞雄之母より成河より未だ松平伊孫守及包凌有る

小舟橋よりと云

猿子橋 長間 六間堀と云

芭蕉庵跡

江戸砂子備着より六間堀程屋敷在りといふ魚信の竹柳の

浦のふく

古池や蛙花こむきの芳

是ハ世庵室より一の白之池例ハ魚ハ一ハ以庵室より一ハ古池より一ハ以や今ハ野代の田舎とあり申之

寺院

○天王山福元寺靈雲院

禪宗曹洞宗願成百名 信濃所

開山放光東明和尚

貞雄補本尊持教観音唐三藏玄奘取刻より一當
寺の鎮守田珠稻荷額吉田兼雄卿筆より當寺に宝曆
七年丁巳中春ヨリ造営羽之宮仲冬ニ殿堂落成就して
山門より天王山の額を掛ケ今年新地引寺號より御
記立之制同己卯七月

御朱印ヤト一法ハ一寺領二百石改附不し由不ハ一
いふ宝曆十年庚辰二月六日ハ大木ノ殿堂急焼之
一丁今ハ山門も石多ハ斗り焼く如

○當智山重願院本誓寺 浄土智慧院末寺凡三十石灵岸寺向

開山大誓上人中興行誓上人

宝物佛牙 舍利

本尊唐佛阿弥陀 観音堂 江戸二十三所之門 北五番

江戸砂子云云尚幸ハ馬喰町上寺町より天和二年壬戌八月二日朝拜三使到着同廿七日登城九月十日登星同午十二月廿日大圓寺より火記殿堂灰燼と云々翌年此地より

石地藏堂

世石仏初ハ印塔の中ニ有り万治年六十六部の供養佛りりが年号月日のし有る享保三年戊戌七月十日より江都ハ云々及リハ近在云々の老若那集以塔

- 法雲院 常照院 勝徳院 江月院 乾用院
塔頭 栄受院 浄澄院 正應院 良心院 真岩院
花翁院 祇名院 法林院 清心院 自朴院

誓光院

瑞穂山臨川寺

禪宗 浄家

海辺大工町

閑山佛頂禪師

寛文比起立

俳諧師云々我前神々高寺入々仏頂和尚の弟子と成テ刹髪片世佛道ハ桃の青き如く云々桃寺と名

道本山東海院靈巖寺

浄土宗 八槽林之内 深川の門

閑山檀蓮社雄答上人松凡灵岸和尚 寺願五十五

上徳園小糸北彦里見氏也江城の東流子大伽藍成建立せん

廣訂要一七陸地とある今の昇殿湯之殿堂為慶の
後寛永十八年辛巳九月朔日浴衣智恩院におり入寂
于時八十歳

第二世珂山和尚の代とあり明暦三年丁酉正月十日回祿
の後世代に移り海濱之珂山の門人珂碩小僧一七境
の成儀ありむと再板江戸砂子と見し一負雄云明和
七年庚寅八月十一日夜火災の本堂斗り焼失り是れ
再板江戸砂子とハ明和八年辛卯回祿本堂を一七意
成上有世説と述之

観音堂 江戸三十三所 二十九番 不動 龍王堂

江戸六地藏 五番 念佛堂雄松院所化堂淨閑院

塔頭 正覺院 栄壽院 長壽院 深松院 安養院
淨善院

○龍徳山雲光院光巖放生 浄土宗智恩院末寺成五十石
同所負芝寺表

閑山還蓮社往還言潮谷信入大和尚
江戸砂子云尚寺ハ河茶尾達立尚寺達立の時御上り
成木より一あり又黄金二十枚以津物と一ヶ石下于時長
十六年亥年之右の黄金を以て建立あり不之。初光の地ハ
馬喰町八千坪の地とあり負雄云是今之
伊奈津左右居之釣倉より依り毛利
長門守殿福島左衛門右衛門及鍋島信濃守及篠之明暦回祿
以後同定と云不詳。五千八百余坪小畷。天和二年壬戌十二
月廿八日回祿翌三年今之地も福より四千五百坪即塔頭

田中徳庵の著述より示す所年貢地

用山上人の為西崎玉那霞上依久村の産天正七年生
民姓不詳増上寺十二世觀智圓師の弟子之雲光院住職
十一年後洛黒公玉戒光明寺住十年慶安三年庚
寅四月十三日寂す神尾家傳曰阿茶房、初今川氏元士
神尾孫之場室之孫多孫義之、同く桶狭間より討死
の後阿茶房父ハ飯田氏より甲別飯田村に居り故父
の元より後より召出御例ハ近江元和七年辛酉六月
十八日 女御御入門の時母元公供奉一寺より一位の叙奉
勅して雲光院の親より二品親王良恕の御業あり
是元公の院より此額尚院小在り

法藏院 淨慶院 良正院 正覺院 一言院 正光院

塔頭清心院 長源院 養壽院 仙藏院 專壽院 樹光院

慈法院 淨童院 清光院 淨心院 固真院

○法花山淨心寺 日蓮宗身延末寺願百石 靈巖寺保り
中興開基日念聖人

貞雄補寛文二年壬寅四月三日寺願の御朱印より
法花山小幡下終り母菩提所より下之御日記より
見ゆ

地中 一乘院 玉泉院 圓隆坊 本立院 唱行坊 善應院
宣明坊 延壽坊 合八院

○大安興國山万祥寺 禪宗 海福寺 海辺新田

開山凌雲和尚 本尊火焰地藏 毎月廿四懺法
再板江戸砂子之南寺八重保の始寺とあり江戸八ヶ庵と云
其一ありと云

○惠日山真光寺 同宗 黒滝末 同所 黒江町

開山潮音和尚 中興大細和尚

○蒼龍山宣雲寺 同宗 妙心寺末 同所

開山卓禪和尚 元録七戌年起立

○日照山專永院法禪寺 浄土宗 智恩院末同所 豊光院

開山長蓮社心阿上人

江戸砂子之南寺性古ハ八重保河岸小右今七正月二十日
鉦鼓と鳴りて是ハむし御城進寺故初春三日遠也

例ト云其後馬喰町上寺町子所 天和年中今の地ニ移る

塔頭 常照院 宗心院 南竜院 良信院 専修院
蓮葉院 玉樹院 専求院 貞照院

○福聚山泰耀寺 禪宗 月桂寺末 同所

開山潮音和尚 中興千山和尚

○祥雲山善徳寺 同宗 四谷竜昌寺末 同所

開山

○深川山貞徳院正源寺 浄土宗 増上寺末 富寺町

開山南譽上人 寛文十年五月九日寂 江戸三十三所 九八番

○大護山因速寺 浄土真宗 東末 大島町

開基

瑠璃光山万徳院 真言宗 永代寺未 蛤町

開山 感益山西念寺 浄土真宗 西未 八幡通町

開基 長光山陽岳寺 禪宗 妙心寺未 寺町

開山 賢臺山法衆院賢法寺 真言宗カサノ善養寺未 同所

開山 寛春大和尚 寛永廿一年寂

開基 磨堂 幽遠 山理照院 玄信寺 浄土宗 智恩院未 同所 行寺隣

開山 還蓮社 本尊上人 玄故 大和尚 寛文六己年 玄故

和尚 異名 小同 起立 本尊 阿弥陀惠心僧 都未 刻

崇源院 殿 御寄依あり 乃とて今ハ別殿トナリ 江戸 砂子

江ノ島 一躰 分身の 母 賊 天安置 寺中 信 浄院

開山 圓譽上人 中興 三譽上人 向西 是天和尚

菰抱 弥陀 三日月 不動 寺中 影足院 正壽院

失除 千手 觀音 多田 満仲之 持佛也

開山 永壽山 海福寺 黄壁流 玄沼未 同所 増林寺隣

開山 隱元 老和尚 寛文十二年 子 四月十一日 寂 万治元年 土月起立

中興 開山 獨本源 和尚

○海照山増林寺 禪宗 駒込高林寺末 同所

○開山 白衣觀音 江戸三十三所之内 三十一番

○三聖山惠然寺 同宗 市谷月桂寺末 同所 正覺寺隣

○開山 別傳今禪師 宗支和尚

○大音山 音流院 正覺寺 浄土宗 松原寺末 同所

○開山

○千手觀音堂 閻浮檀金 賴朝佩持佛 江戸三十三所之内 二十五番

○日照山 中央寺 春堂 禪宗 長慶寺末 佛船藏

○開山 大夏 不安和尚

○當日山 西光寺 照明院 浄土宗 智恩院末 同所 六間堀

○開山 源蓮社 信譽堂 皇故英松大和尚 慶長土御年 年小村久

西起立

○觀音堂 江戸三十三所之内 二十七番

○高照山 勝福寺 天台宗 上新末 同所

○開山

稻荷神社

往古淺草御門の側ふりつて了後町 四丁一鎮守なりしり
千石今の地一福さるり 江戸砂子あり

○東光山 要津寺 禪宗 妙心寺末 同所 六間堀

○開山 貞享年中 牧野備後守殿 起立

○蟠竜山 天樹院長慶寺 禪宗 耕雲寺末 森下町

○開山 大夏 不安和尚

富田稻荷社

觀音堂

當寺小芭蕉翁 其角龍雪等の 俳諧師の碑有

咸益山西念寺 浄土真宗 西本 黒江町

岡山

猿江

此地多くハ氏多クハハ村トモ町あり入多ク下
多世ハ本下の方ハ層有

猿江稻荷社

妙壽寺兼常

鎮座の年代代々ハ少ク尚下の鎮守アリ

五本松

小石本川通り

江戸砂子云松浦玄蕃も及屋敷のハ大松一本アリ
一本アリ一故今も下の名アリ

不虛山當智院重願寺

猿江

岡山願譽上人 昆哲和尚 寛永十六年 己卯起立

本覺山妙壽寺 日蓮宗

同所

岡山信入院日崇上人 正徳年中起立

萬徳山廣濟寺 禪宗黒滝末 同所

岡山潮音禪師

醫王山無量院泉長寺天台宗上野末 同所

岡山東順法印 慶長元丙申起立元禄六年 養正深川ハ始

薬師堂

立野山慈眼寺 日蓮宗

横江

関山日蓮聖人

元和元年卯年起立元録六年壬酉深川移

覺王寺

真言宗 普門院末 同所

関山

慶長十九甲寅起立

本所

里諺に云往古ハ本庄と申一氏元録の比本庄家置り

時より本所と改申りし

續砂子より万治二年此地改りしを以て天和二年
故有て土民の居定引拂りし田圃より中洞の斗の
声より此の地より水元流えの春よりえの如くを
かへされ今より益繁花の地となりし

辨蔵神社

一之橋南

惣檢校支配

元録二年中惣檢校松山氏の起立今小多惣檢校の持

深川八幡御禊所

神休馬上神像

每天之南隣

御取藏

一之橋より新大橋迄の間大川を以て

此辺をすし安宅と云續砂子より曰今此地の惣名と云
石舟通りの清水に在住居山伏所を有寛文の初迄也

完九の沙船おろし下へ

貞雄云寛文の初迄安完九道れ一と云ふ事誤り

天和二年近ハ安完九無所と云ふ事一之安完九所船

多し事多し一ハ天和三年壬戌九月十八日命有裁

奉行は作舟り角ハ小笠原丹後也及鍋崎常力及之

御船自向井將監下ト旨有作舟事御日記と見し

豎川 浅草川より中川へ渡り川幅拾五間有

世の初と云ふ本亦是目也 逢井より堀通し

是式三四五ハ橋成掛れ一ハ元和と寛永其六年迄の間

れより 續砂子より橋有九間之橋長九間中ノ橋新造橋は四橋

十間其目ハ橋あり 船渡りく六目ハ橋あり 橋より

間九四丁程有

貞雄云豎川ハ浅草川の入口より 逢井の渡り一近一里八丁

四拾八間ありと云

樟木橋 中の一ハの系三方より云々

扇橋 小名木川通り 新造橋の系三方と掛り云々

榎木稻荷社 菊川所二丁目 別當 吉野院

末社陽壯稻荷社

元御蔵 回向院のより云

上野屋舗 同より云 廻り元祿ハ以長上野女屋の由家

駒止橋 今ハ所居多し

西面橋の東詰藤堂大寺頭及藏屋名（河下の小をく
入堀の橋を云と江戸砂子出

片葉の茅駒止の小溝の茅之依之儀より片葉堀
藤屋敷

大川通の松浦宗の茅宅を云むり石木の後有し中古
老の傳ふ船籠と大木の椎あり方へは椎木屋名と云候
是紙詰りの表と云江戸砂子出

駒止石

椎木屋名の前大川をく通の中と九ヶ石有り
八幡右部奥別荘向の時義丸社所より
江戸砂子出

市杵木藏

椎木屋名の南享保十九亥年と横江子移十九と後御
藏建り江戸砂子出

本所馬場 市杵木藏の石

割下水 北割下水 南割下水

石原

深谷本庄の内と石原村と云り世所成往古本庄と云
るをいへ世所成石原と云り古丸の語也

貞雄云石原と云深谷本庄の門より一
此面の方石原村より世所成り一武別大屋那の門
埋堀 石原の内之堀ありと埋り今町と云

赤城天 石糸の門 清雲山即現寺持

鎮座の年曆とありは多し世道と毎天小浜と云ふ

牛御前御旅所 石糸

横川 堅川と對しての石く川幅十二三間有

鐘撞堂 横川の西川をく入江町に有

中之橋 横川より

法恩寺橋 中の橋の次

亀戸橋 法恩寺をくの前より天祿の末

牛島 藤堂大寺及び藤屋寺の辺り牛の西糸の

貞雄之上古ハ兩國橋回向院と牛島と云ふと見

しり明曆三年小回向院地面は下り時の日記に

牛島にかゝり寺地下にありと云ふ

寺院

國豊山回向院 浄土宗 増上寺未 兩國橋東

岡山増上寺貴屋上人 二世信譽上人

江戸破子久高院ハ明曆丁酉孟春十八九兩日の火災に死せ

所の十万余人余人の亡魂は為嚴人申し依り草創有る二世中

興樂蓮社信譽上人福小石川知香寺住職しり城高院

未ッ百歳ありし依り推し男二世に任し佛係を以

に城高院寺小蓮の實証ありし念珠しり新居

積りて今余も今堂前の蓮池に生きたる不の編は是れ
種と也

當院の寺号なり。世俗無縁寺と号せり。草創の
きり今の本堂の池に一塔の義塚あり。後年塚の上金洞
大流陀を安置す。堂今の方丈の北南向に建たり。天和二
三戌年十二月廿八日の火より焼く。後堂成棟の上建て
金佛を本もとす。元禄十六癸未年十一月廿九日火災に依り
金洞の流陀銷トロケく。至り於四世觀音上人祐鑑和尚再い
銅仏を鑄く。堂の前は鑄汎と云く。本堂を安置す今の
本も是なり。

鎮守弁戔天社

葉芭弁天ト云 弘法土降作 立係五人

開山上人勅行念佛の間、千体堂の世尊の御首ミクシを葉芭に入
於てより上人統トクく大師の眼刻メノキよりと相し。御衣木以
眼刻より寺の西南に安置し護法神と云。世時より今小
開帳あり。似れ孫マコせ一人なり。千体堂今に於て江戸町に在

一言觀音

略縁起云當寺四世祐鑑夢中に和列より來現有て世尊
跡成追来く。南都より十歩あり。或昔々矣也。別山
門の上を安置す。元禄十六年霜月中旬任持直向に告ぐ。極
上より下し置ツく。と別山祈イノり。宝り九日同月廿二日夜大蛇
一々諸堂例是同。是れ頼尺寸を本係を墓所ハカの中。是れ
是れ蓮堂ハカより燒く。今其跡残たり。諸人其より問

傳つゝ祈願を只一言と成就あり故世に一言觀世音と云
任職番卷上人の世に至る官殿莊嚴誠しりちあると靈
驗ハ世に——のふたりハ畧之ト云

雨宝童子

上宮太子ニ休まよ五世忍卷上人の造立ぬり太子の御首後
堂家の臣より奉納の——江戸砂子より布り

馬頭觀音堂

明暦年中公儀の御馬戎葬の塚の上子柳子無畏の儀以
造立り廬といのりよある——

三佛堂

万治年中町奉行より寧死刑死の亡魂のよめ上一字の蓮

建立り江戸市中々毎日佛餉を不祈の僧十六日世堂
徑中を釈迦弥陀大日ハニそのを安置する石塔一基造立り
江戸砂子より身あり

高野山大徳院

高野御佛殿別當 真言一目 回向院

本尊薬師境内に南都大佛殿勧進所あり

万徳山修勤寺

真言新義 齋頭 寺願百石 一目

當寺馬喰町上寺町ハリ天和二年世地に移さる

塔頭法樹院 徳上院

正福院

宝珠院

正覺院

竜光院

貞雄神主寺馬喰町上寺町旧地と諸寺に侍れし

古繪圖といふ考れし今の元岩井町修勤寺旧地其比彼

川辺と馬喰町上寺町と云——

少や

天恩山羅漢寺

黃燈宗

五二目

開山鐵眼和尚 中興象光和尚

本尊釈迦文殊普賢五百羅漢像等と改門松雲造立也

元録八乙亥年八月朔日大圓廣惠圓師開眼其日寺号山号の

願書成り小中興象光和尚江都市中勸化寺の本堂羅漢堂

方丈等の諸堂憲建立有り字係年中堂供養執行有り 羅

漢の座像二尺五寸之 本尊 昭立大佛より石座獅子白象凡八

九天岩廻有り江戸砂子也 舊事若話云松雲ハヒと佛作

りて後上法眼和尚の骨子と成り出家す師云汝は無徳無殊

れ佛之何をも一生の大教を起す一と松雲はけり考く

何の日師と見たりと今東都に五百羅漢の像あり一生の大教

小を紙刻む一とされと僧の力も及ひりかんと師云是甚

一と汝汝の生の大教と云一と先の本尊百五十金眼立觀音勢

至五十金眼四羅漢一体と七金と定然と施主有りハ形む一

と松雲のいりり大金の誰人の施主と有りい片の付大教

成然古處らん師笑いりり是もて汝の一生ハ是れ也禮

敬終す一と先也汝定然と大教を記す一と松雲師の令り

隨の先ッ試羅漢二体と高サを八二寸一造り眼師と名

鉄眼是汝又々大を名いてやや松雲ややとて其後之同

師の云汝は上多かり出来は甚しといとも汝の心はいりり

等小之像意ちいりり且大の人の病も安んぬむ一と松雲

いり佛像大くハ猶成然なりりり一と源の云知らん

唯日々之修（一）と教ありて後功ありて京極寺及び一休の施
之とありて形志むと修（二）と牧野備後守一休桂昌一休と十休
夫とありて施を有るなり成就す神ありて浅草觀音北門
後之ありて取む其後分の寺北とありて世黄壁鉄眼和尚
日本初く一切經の藏板と起す六万金と以て成就すなり
毎月朔日觀音懺法十五日大般若轉讀七月中毎夕山門施
餓鬼十五日晦日大施餓鬼有りと江戸惣慶子名所大金と出
表門明和七年より八年と至り成就す境内布袋園羽
四天歩と持来り開山堂象先之像之堂の後と石碑とあり

○鎮護山碩運寺

禪宗 駒込大田寺末 石原
慶長元年起立

開山附山榮傳大和尚

新美稻荷社

本尊聖觀音

江戸破子云北稻荷ハ往古より石原の鎮守之慶長元酉午年
此地より起立古境内東西貳拾貳間南北拾八間之凡三百
九十六坪余館林茂林寺末駒込大田寺第五世附山榮傳和尚此
地城再興也同六年十月正木内膳九畝六歩の地を寄附り是
碩運寺全道庵主と号したり

○高菟山普賢寺

天台宗 上野末 牛島大川橋

開山 文明五年己未年起立

中之御堂六天別當

○玉島山明星院東江寺同

同所

開山 天正十一癸未起立

多田藥師 畧縁起立村上天皇御宇天德二年多田滿

仲云四十七歳の御時根別多田小右衛門忠心僧部代御頼樂師
如來不動毘沙門と御建立あり亀山院御宇文永二年春團
中大乱より及び兵破羅漢山より赤い堂塔成焼失し一山大衆悲
三尊と忠心御自筆の法華經并満中土本尊（自備）系
佛器石の唐根より入春山（カニマ）の麓に埋むるに拾四年との慶長
元年不思議の昔有り多田宗玄と云人其成場初年九月八日
て史より京都東山辺に安座の不可成く東武より里今の不
と安置之

蔓敷云今石櫃ありて蓋の表に汝羅蓮岩峯寺トアル
由文永二年春の乱何の乱に追テ乱ニシ撰津志卷八河
邊郡山川の條に汝羅林山左東多田村昔寺同名ク山

産ニ水晶トアリテ外ノナシ寺ノ名モ不見

鎮守三度稻荷社

鎮定靈府本尊堂

元三大師堂

地藏堂

中之郷 昔に石系と云れと多くハ中のやと云なり

南向榮詠云業平朝臣の如を住なり一故里人とも中坊の々
と云一と里詠と誤りて中のやと云れと云一史可免の村史

諸色傳ふと世本業平天神縁紀より見ゆ

業平天神社

別當 業平山東泉寺南藏院天台宗同納

社傳云元慶年中在丑中將業平朝臣分枝身杯玉りんと世東路
小下り其而誘の痛し船道違の折り俄に悪風を付りて船舟
悉くく津のりてあれも中將の御船は鹽梅船より深流に上り
いざし急ぬく世傳に止りて彼の津船具は流るる一取成
鹽島揖島と云ふに地名とすかくて中將を未世より津
保と云ふ先んと津に付て二人皇子衣冠の靈係を彫刻
し、舟に下りて里人より附屬し、舟に村長船島に社を造る
て右のその係を鎮ふに業平天神と云ふ其志より
草庵成むとい神傳を持し跡に東京寺と云ふ當時九代在傍

良海法印靈夢を傳へ南藏院と改号し業平塚とすハ
中將自ら寺号し、舟に法華八軸を 驛路の詠草成地中へ
埋め八重に松一本植ふと云ふ事より舟に津保と云ふ傳は
本立揚りて中將の衆と云ふ事より亦業平朝臣の加賀臣
たりし左里人ハ中將の郷と云ふ故里謠誤りて中のり
し事ありと云ふ事

米涼雜記曰往昔ハ世社横河向小梅より横河坊里より
北時今の所へ移るる舊地ハ今水戸公御下屋敷より入る
鹽島揖島楸島より小碁水戸候御屋敷の内に入る事
別當東泉寺同山を忠家法印同基ハ林能法印の寺傳に
於て小業平天神の事敷説あり世宗の一本ハ上徳園業衡と

武士より歿して計死す。塚より、多しあり。江戸砂子の
成平と云相模の所、し、みまのりし。後土中、埋むる墳墓
之亦江戸砂子とあり。人の云、水溜のころ、安房國里見と小田原
北条と、駒小付里見義廣の弟成平、計死す。津、
登りて成平大明神と、り、成平塚も其古墳なり。と、是亦
記し、津れ、信、り、り、里見と北条、鴻基と、駒小付里見
成平、此所より計死す。古書より、能知か、形、す、授、
所、會の、説、ふ、ん、り、江戸砂子の、續、編、よ、い、つ、東都紀、行、成
引、下、寛文の、比、今、業平と、其、名、と、一、者、世、亦、より、計、れ、
埋、り、里、比、を、一、塚、と、い、ふ、一、由、成、記、と、母、説、と、も、あ、る、ん、と、
光明稲荷社 業平天神社のより

光明稲荷社

業平天神社のより

大日堂

同所、門前より

石地藏

修、り、を、な、れ、地、蔵、と、云、形、を、の、り、れ、を、そ、と、傳、す、
なり、と、い、ふ、

八幡社

別當 天台 泉竜寺 中、々、所

社傳云文明七年乙未鎮座のより

丈六天神社別當

普賢寺持 同所

文明五癸巳年起立

業平橋

業平天神の例と、掛、り、と、

法恩寺橋

長、廿、間

築留

水戸候御屋より、北、堀、の、土、手、より

源平橋

同所、向、左、の、筋、に、源、平、橋、と、り、

中卿山源光寺

浄土真宗 東、末

中之御 北、割、水

大方山廣佛院華嚴經寺淨土宗傳通院未同所

開山向蓮社一書上人信阿和尚

開基のむろい毎日四衆を集めて華嚴を講せんと江戸砂子に

蘇師如來 惠心僧都作

東栄寺 天台宗 最勝寺未 同所

開山

隆幾山出山寺 天台宗

同所 久場

開山

本尊自然木出山之釈迦佛

自雄補 江戸惣麻子名所大念と云自然木出山の釈迦の

像有り天竺の妙自然子成く布代の像あり 性有る

一しと云く

醫光山泉竜寺

同宗 上野未

同所出山寺トナリ

開山宗賢大和尚

文明三年卯年起立

貞雄補中興慶順大和尚

正覺山妙源寺 日蓮宗

牛島之内 北本所 荒井町

開山中先僧天目聖人 建武年中草創

如法山威應寺

浄土宗 幡随院未比丘尼寺同所

開山空蓮社番卷上人

清薫比丘尼 初ノハ清薫寺と云元

祿十四年己未寺地持願之

桂昌公御執立の後寺号と改む

中將姫屋谷 號 當寺の什物之

長景山清光寺

天台宗 浅州未

同所

開山俊能法印 文明三年卯年起立

○ 曼應山實相寺 日蓮宗 本土寺未 同所

○ 同山 慶長三年起立

○ 延命山采壽院 禪宗 福嚴寺未 同所

○ 同山 明曆元乙未年起立

○ 同山 白牛山挑音寺 同宗 妙心寺未 同所 小梅代地

○ 同山 玄門和尚 延享年中 近定林寺と云

○ 同山 牛島山福嚴寺 禪宗 吉福寺未 同所

○ 同山 延徳三年卯年起立

○ 同山 正栄山妙縁寺 日蓮宗 大石寺未 同所

○ 同山 日舜聖人 寛永三乙申年起立 日舜の末寺 大石寺十九世の位

○ 同山 向東山天祥寺 禪宗 光林寺未 同所 小梅代地

○ 同山 松浦家中興開基之由

○ 三圍山真珠院延命寺 天台宗 同所

○ 同山 弘法大師 三圍稻荷別當

負雄補江戸惣庶子名所大全云 尚流上尾の不動寺有

中の御尾所中成彦六作人此彦六無双の巧みで尾畚を法

物成也不諸工の不及而中にも佛像を此彦六を傳へり

正保四年九月高野山蓮華定院の住職堅立法印所を

よ依り俱利伽羅不動の像成也此彦六の同山行勝上人

ハ明王の化現と云傳へる故園に諸工を命じて其像を造り

たりしむる小佛二画原も陸王の初王の如くなりし事ありしは

此彦六が尾畚を傳へり此彦六不精外生動等と諸人驚歎也

此と多中あり院之威心の修り件の歩級と年々興へる極口
利き高と人々善哉持事ありり又や一記とて院
侍の彦六くく今之権の末危安の地を任りて東部及降の
功光の善修氏と大の彦六ありり

○業平山東泉寺南藏院 天台宗 同所

同山忠茂法印

貞雄補江戸赤子名所大全云同山林能法印本号聖観
音地主神明 稻荷 當度九世の住良海法下靈屋あり
南藏院と号せり亦同書ありて業平塚の塚の
祇船の好りと願書より記しれを船の祇と号り
在昔中将りてり年々善修氏ありり

く川社門に註あり

○聖國王山松栂寺 天台宗 浅草寺 同所をん坊

同山

○照法山本久寺 日蓮宗 下総国本寺寺未 同所荒井所

同山

○牛寶山明王院取勝寺 天台宗 上野末 中之郷

同山

不動明王 良長僧正作 貞観年中起立

寛永の比度より御成有り御殿の跡と云ふ山王を祀りて小社有り
貞雄補江戸惣幕子名所大全云貞観二年辰慈覚大
師勧請の牛御前別當とて社と同時と起立近年境内土

中分堀出石碑所表之新迦の像所表之奉造立
新迦像一軀貞觀十七年未二月法華寺部明王院より
青石大廿四尺余巾式尺斗厚サ三寸斗之云々古雅多
物之下略之

光德寺

天台宗

浅草末

同所

開山

貞雄云世光德寺之印子妙子江戶藤子等子治土宗と有

長泰寺

同所

貞雄云世寺類子ハ又ハ

瑞松山靈光寺

治土宗 増上寺末

同所

開山亦食言上人

貞雄補世上人の法力具し神靈解脱物語上有食言類書上之也

喜桂山成就寺

天台宗

上野末

同所中之々

開山法印齋慶

正和三甲寅年記立

寶珠山如意輪寺

同宗

浅草末

同所

開山

大子堂

聖德太子十六歳の真影安置

隆江山長徒寺

浄土宗

牛込光照寺不同所

一道寺

長勝寺

天台

成就寺末

同所

開山

覺英山清雄寺

日蓮宗

妙蓮寺末

同所中之々

開山

真源山松嶺寺 禪宗 多福寺末 同所

同山

清雲山即現寺 同宗 妙心寺末 同所

同山

柳島 押上

往古世辺柳多き故に柳島と云ふ未母寺也板しけ所
しり抄りしり

意富比神社 押上 道義堀 吉川源十郎及屋敷内

延喜式神名帳下總國葛飾郡に有る意富比神社是なり
今誤して是を夕日神社と云ふ吉川氏の元祖惟足翁ハ萩
原家の神道ヲ傳へ吉田家ニ仕へ其後同家子下り神宮を以
家ヲ發し世に改稱順多し也

安樂山本佛寺 日蓮宗身延末 柳島

寶壽大明神 弘法大師入唐の時彫刻

子授鬼子母神

畧縁記云古寺子授鬼子母神ハ延宝五丁巳年四月八日小綱
町三岐川上をよつて也其小綱像也武列下谷池之端後田神在門
といふ位心の傍にあり深川上市村河原志といふ者の女成像を男子之

平生... 此寺七部方丈... 延宝六年... 男子... 為寺... 日蓮宗 妙福寺末 同所

閑山

平河山法恩寺 同宗 本願寺末 同所

閑山日住聖人

關東方錢録... 平河法恩寺... 入道法恩寺... 大永四年

造立一側... 小堂... 南向... 加藤敬豊... 大和守... 法恩寺... 元平川... 寺... 初め... 貞雄... 法恩寺... 寛隆院... 正運院

- 一理院 壽遠院 大嚴院 寛隆院 正運院 寺中二十軒

圓理院 聖靜院 子林院 吉祥坊 本成坊
 千栄院 教藏院 慈雲院 大蓮坊 峯庸坊
 寛衆院 常唱院 善行坊 持經坊 知泉坊
 ○常左山靈山寺三尊教院淨土宗十八檀林之内同所押上
 同山念蓮社專譽上人火起和尚

本尊阿弥陀 慈覚大師作

智恩院御門主尊室法親王持尊佛之尊室法親王五本松子
 御座あり法之故御影并御廟堂境内あり

觀音堂

當寺性古ハ湯島妻戀坂の上あり明暦以後淺草子移
 振言願寺境内安養寺ハ世田谷也元禄之春世北ノ福ノ江戶砂子出

塔頭 德壽院 靈性院 竜泉院 良徳院 西接院

貞雄云性古上包十八檀林を寺願し十七寺有り一は御影
 味の上世靈山寺ハ作月ゆる貞享之内宮之月七日御日記曰
 淨土宗十八檀林を寺願有之月御影の上今日淺草靈山
 寺檀林ノ御影ノ寺願有之月御影の上今日淺草靈山
 安廊栄和尚之依々是成中真嗣祖ト云再板江戸砂子
 小世上人ハ一宗の英傑行徳世ト云下ノ著以承の性生
 要集指庵抄廣む世ノ行りト云

○妙栄山本法寺 日蓮宗 本願寺末 同所 押上 上水ハ夕

同山

寺中 法雲院 本妙院 玄接坊 十來坊 眞如坊 住詮坊

○ 永泉寺 天台宗 成就寺未 同所

○ 弘誓山德正寺 同宗 浅草寺 同所

○ 常照寺 同宗 東光院未 同所

○ 長行山大雲寺 淨土宗 智慧院未 同所

○ 閑山梵誓上人負存和尚 寺中 宗想院 皇元院

○ 當寺 鬘毛曼多羅

○ 天松山最教寺 日蓮宗 身延未 同所

○ 閑山仙能院 日宗上人 寛永年中起立 七面大明神 勸請

負雄補再江戸砂子日蓮上人筆蒙古退治の旗曼

陀羅每年七月虫下之時諸人子持をりすと云

○ 妙見山法性寺 同宗 真間山未 十間川

閑山

妙見堂

妙見松

元和の比。御成之時妙見松鏡堂と名付たり云

妙見降陰より妙見松と云ハ十年松と云ハ世

ふ年と云ハ古松と云ハ

龜戸

此地有る事い亀の井所のり故り之名所と云ふ事
ふらぐい亀の井ありあり

○ 亀戸天満天神社

別當 菅女僧都信隆

尚社畧記云正保三年 丙戌筑紫大宰府社藏菅原善外
苗裔大島居信祐或夜のまゝ

十^カ立^カる^カ事少の梅のそねわ^カり^カ地

少^カ登^カり^カ成^カ得^カる^カ宰府より^カ下^カの花梅^カより^カ新^カの
も^カ係^カり^カ取^カり^カる^カ後^カ尚^カ地^カより^カ寛^カ文^カ享^カ世^カ年

台^カ令^カ有^カる^カ尚^カ不^カ言^カ一^カ里^カの^カ地^カ成^カ形^カより^カ同^カり^カる^カ名^カ所^カの^カ事^カ形

徳山氏山崎氏ト訴^カく^カ同^カ正^カ宣^カ年^カ社^カ地^カより^カ同^カ之^カ癸^カ卯^カ年

神殿新官殿^カ殿^カ五^カ橋^カ心^カの^カ池^カ事^カ府^カの^カ順^カ中^カ世^カ年^カ八^カ月^カ祭^カ禮

神輿^カの^カ儀^カ式^カ是^カ亦^カ宰^カ府^カの^カ例^カ式^カト^カ別^カ々^カ本^カ地^カ之^カ巡^カ行^カト^カ同^カ土^カ事^カ宣

爰^カ信^カ祐^カ上^カ京^カ七^カ月^カ十^カ八^カ日^カ新^カ院^カ上^カ皇^カへ^カ奏^カ内^カ御^カ業^カ近^カく^カ縁^カ記^カ成

讀^カ敷^カ感^カ有^カる^カ官^カ女^カ出^カ羽^カ局^カト

勅^カ一^カ々^カ御^カ衣^カ成^カり^カ一^カ々^カ同^カ月^カ廿^カ五^カ日^カ後^カ水^カ尾^カ法^カ皇^カより^カ尊^カ号

此^カ震^カ筆^カより^カト^カ云^カレ

別^カ當^カ始^カ祖^カ信^カ祐^カ二^カ世^カ信^カ政^カ三^カ世^カ信^カ隆^カト^カ云^カレ 按^カ此^カより^カ江^カ戸

砂^カ子^カ寛^カ永^カ云^カ丙^カ寅^カ鎮^カ座^カの^カ由^カ書^カハ^カ証^カ了^カレ

當^カ社^カ寶^カ物^カ菅^カ官^カ相^カ公^カ太^カ刀^カ天^カ國^カ寶^カ知^カる^カ色^カ々^カ有^カり

藤^カ御^カ手^カ池^カの^カ池^カ上^カ十^カ余^カ丈^カト^カ及^カり^カ尚^カ社^カ名^カ未^カだ^カり^カト^カ江

戸砂子記十太宰府の藤も是より同し〜人の説く

妙義社 上列妙義山城移り管公御法師法性

坊尊意阿闍梨の祭り〜杖兼畧記云天慶二年二月

廿四日天台座主大僧都尊意卒年七十七俗姓恩長丹生真人

左京人也云抄の江戸砂子春秋七十四〜寂庵と書ハ

諺〜求涼雜記云或説妙義の社ハ舊事記出衆神

白雲分命所爲〜故妙義と白雲山と號する〜ん〜

花園社 本社の内ハ有菅公の北の方菅公の御子

九一方政相殿小紫より〜求涼雜記に有

負雄神別當信隆の方ハ異玉有ハ大サ雁の玉子有

〜り〜て御公不定時〜〜怪き時〜〜

〜も〜り〜本も〜り〜是〜諸病〜加得〜小

忽愈希有此妙玉〜去ル安永四年相列箱根山の麓皇

柄那宮城野村ハ百姓半右門と号者〜天性正直〜

常ハ仙神哉信仰〜父母考養厚〜母老病ヲ飯食

〜〜〜小童〜成歎〜遠〜走〜醫業成

求め永四年未二月四日キニヤキ時山の麓大畑沃々深山ニ入

年終る亦此山のいし〜坂末めり〜能〜いし〜

た〜〜暫休〜年外の海〜岩〜松とあり

妙ぬ差牛〜我名〜呼声〜い〜父を

海と覺〜異形〜羽人〜宝玉持〜松の上を

亦ハ是此山の主ぬ〜世の考養と感〜げ玉成〜

志を折向を許 降るを以て玉成はひきまを老母
考もよ 病思愈むまゝ病も考むるの所を如件
まよ或は痛ふある者世をまゝ極楽に一家定ま
しとて彼玉成をまゝと受て受たすめぬ世に
てあゝとて是れは松の辺に彼の靈玉有り奇異の事いふ
押しこき志を折向して苦の如く老母を療養する
忽病愈ぬ母子を成悦し幸進ありて彼をまゝ
事の人群を時中にも如意の如意と云者種々の
物成れしや体の妙殊成りて極めれは忽腦水ぬ
は初身如意の歡喜の極り玉成入る器の取柄等成
奇進しとてけ外靈玉の靈驗成降る人かき少くも

何れも此靈玉故ありて信隆の事と初光と 市原有
て信隆の事とありて 要し條して其を子細詳し
すしとて多し記す

梅屋敷

天神より二町余東

清番庵

臥竜梅と稱する形龍の伏するに似たる十余丈の近世種人
此玉作甚多し

貞雄補世臥竜梅の下に天満宮の小社あり 神像は此
木の下より堀出たりと江戸砂子谷所大金より
世梅は吉原大吏初代の子尾の鉢植なり 臥竜梅の谷
は水戸黄門光圀卿の谷附なりと真板江戸砂子より
亀ヶ井 小千代無井の中より多くありと村老の説く

藤の井

江戸砂子、江戸麻子と云く亀井戸天神の邊に農家の家
ありむし、庭の末に坂倒し、これをこぼれ岩と云く井と云く
記す、葉一本の農家の家、梅の大木あり、叶毒と梅の
とを付と大、家より、何と記す、井と云く、
梅屋敷の藪の内に井あり、池あり、方七八、向崖
あり、水常あり、早魁と云く、
いふ、古書に記す、不の、藤梅より、見れを世所
くと江戸砂子と記す、
の記すも、何と云く、

千葉石

江戸砂子の亀戸天神、
石、其形微妙、
廣布石の事、

神明社

江戸砂子の梅屋敷、隣九郎右門と云く、
里民の云、浅草濱成竹成の船を繫木と云く、
いふ、

香取社

亀戸

神主 香取越後守

祭神、一宮、記曰、
神主、神号、
為社、

同社 小村井村

水神森 六河強陀の南に本有社有り 宝蓮寺ノ持

元天神 同所 龜戸大神祠にて鎮座の系

小島橋 押上

境橋 小村井 龜戸境に有り

吾妻橋 境橋の下の所 此之橋皆北十間川と海と

吾妻大権現社 吾妻表 龜戸村 宝蓮寺ノ持

畧録起云柳菴社ハ人白三十二代景行天皇皇子日本尊の妾橋姫命の舊跡ニ此橋姫ハ人皇七代孝靈天皇御宇物部連等ノ祖大水ノ宿禰ノ孫穗積忍山宿禰の女ニ于時景行甲午庚戌東夷共謀叛志シテ日本武尊伐大將軍トシテ吉備武彦大

伴武日蓮林を以て是代討む同八月尊相模國トを上総國へ行ゆんといふ海の中にて暴風忽起て舟船漂蕩して波登りて仍橋姫尊ヲ啓して日足必海神の宮なりん我身成必く尊の御命ニ代り奉らんといふ所へ浪河ト飛入道卷水の泡と激りいぬ歌ニ一々風止浪静と成て御船岸ト成り故に人名介々御所の海上に馳水ト云ふトを尊蝦夷ト云ふ武尊上野城巡り西の方碓日坂ト云ふ東南を望橋姫命入水ト云ふ事ト云ふ御身ト云ふ事ト云ふを葉の鏡海中ト云ふ然るに命白狐神ト云ふ所得再い穂積の家ト云ふ所ト云ふ人皇八十二代後土御門後内子穂積臣が葉鏡木遠山井出の三穴橋姫の御海を慕ひて正治二庚申年八月十日右内侍を葉の鏡を以て

神体と一 行基作土面觀世音と云く本地と云く 今の吾妻表
舊跡を移し多し 則吾妻大権現と勧請す 則白狐神と新
羅稻荷と云ふ等一の末社と云ふ禁村むし 一 陸奥の歳ト云
へ 其後兼久の以北奉養時 國東管領の刻太田何某西葛西川
領地をれを鈴木隼人遠山宗女井出大寺右田一 是ラ亦奉時
所々社時建之也と云ふ中絶して 諺の宮社といふも 此君が世
陸奥民此社と請て 此の所を 此の所と云ふやうと云ふ
江戸砂よと云ふ當社に名の宮殿之小 小きも亦有る 尚所橋姫の
御廟と云ふ 鎮座は景行天七十二年乙卯二月二十日及と云ふ
東府第一の古跡也 石のよに里諺のいふやうに 其の神ありしと云
文し比遠山左馬 鈴木隼人井出大寺保云人再記せしと云ふ

按て 江戸砂よ此説縁記と云ふ 亦遠也 源記は後世子紀
也 其の所を 此の所と云ふやうに 其の神ありしと云ふ
人能あはれを考へし 其の神の祀あり 或る身ありし

神木

連理楠大木也一本より男木女木あり

負雄神社傳云 津神木相立楠畧縁記 抑尚社御神木楠
昔時日本武尊東夷征伐の時相模國に進む 上総國
到らん 津船と云ふ 是の津船中より 暴風をきり 上総國
既と津船危りし 小津宿橋姫命海神の心を知て 御身
と海底に沉みりし 忽海上に 舟をのりて 然るに
御船を舟(きり)し 是れは 尊皇慈心を 舟をのりて 舟
や 舟を舟(きり)し 舟の島に 舟をのりて 則津船を波の字

竜燈松 本堂の傍よりおく竜燈塔云々より

○慈雲山竜眼寺無量院 天台宗 上野末 同所

開山良白法印

尚書明和の秋多ク福一遊觀の人秋亦入修ふ其秋寺と
後別大坂の秋寺と撰云々

○瑞亀山長壽寺 禪宗西派 江別永源寺末

開山大梅和尚

○慈雲山光藏寺 黃蘗宗

開山河南大和尚

○東林山華藏院寶蓮寺 真言宗 寺嶋蓮華寺末

開山真鎮法印 乾元二年印年開基 吾妻森別當

本尊虚空藏 安河強作 紅府三尊堂藏の内之

所謂二佛ハ北呂川養願寺 白山西坂下正福寺 當寺ナリ

是皆本尊也 按云々 乾元二年より 改元二年 聖印喜元

元年之九十二代後二條院中云々 江ノ砂子云々

○不勤院

○福聚山善應寺普門院 真言宗 宝持院末 亀戸 天神居云々

本尊大日如来 開山宗詮

慈眼水名水也 當所第一の大寺 風系殊勝の地云々

身代觀音堂

貞雄補當寺畧縁起日尚寺本尊聖觀音ハ傳教大師御

作ナリ 性音下終咽是立の莊陽田川の辺ニ安置于時大永二

壬午年同郷三勝ミツカの城主十葉中務大輔自胤の侍臣佐田善次
盛光後維繁の侍者の統右と侍を以て流し伏誅の事あり已
刀杖を加んとせしむ白刃に折る新卒不能衆人大に仰天す
左右其故を問ふ光はうろく臣罪に死に付し如何とも
了す道あり偏に年来信に事あり尚郷の聖觀寺に改葬する
外他ありと仍て自胤寺僧に命じて花念珠ハナノイを開く是改葬する
子尊客の遍身の血滴と然して涌出するが如く自胤甚驚歎
て姦人を糾明して盛光は危難を脱すぬ年有て自胤の児女疾
と犯されり少く有醫業書業を振ひ咒術丹素を抽け云々とも
其功祈もりし人活計盡す及て自胤彼の冥瑞成し出せぬ
世々々懇請す其夜父母夢見くき紅の蓮華以持する老相来

彼児女の頂を摩りて又て多くと云々病苦急す本後を自
胤と成り利生を偈仰願して俄に精舎を城門に揚り長覺
上人を導師とて新に開供養ありて福聚山善應寺普門院
と号すて代々普門院廊下掃いて今以て湯田川の辺に存せり而後
天文二年午歲病咽中流汗して瘖人殺害と云ふ事ありし
此觀を念に孝に病者と臥床を兼すと云ふも夜夜泣く
事あり谷未曾有の奇持とて將長賢の弟子長榮齋服の中
一光公羽の形容招撫して床辺に大息す有長榮といく雙フキトハ何
しりまると老公羽のいたく事ハ是施無畏大士也衆人の度疾
代ら故に病苦一身と遍りあられ上人我の法十座を傳して予が
救世の加修カとあるべしと云ふと覺して鶴鳴とす長榮風

戟角被毛之屬應時解脫之隱云顯通徹無所不至其有聽者靡不勸悟其心者及後其身惡以斯善以修而證曰通耳良惟雖似抽白帝之精就息氏之半而實顯法性之妙相發法雨之圓音者也宜矣神用無方豈易得而言哉若天晝誦夜禪仰粥午飯不戒其期者偏賴蒲宇之功凡僧伽蓋息不可無地豈是以身毒支那而至本邦所有名山勝區無不有鐘所以其不可闕之者亦為大焉爾有精舍榜曰普門惟其權輿大永年間千葉平君自胤割據總州之日傾信教奉文慈像力構梵宇於三勝城中安置供養其像一時有長賢上人一行潔德芳為密林之望平君延師主之以為始祖於然遭於干戈載塗罪祀融之殃或興或廢難可備紀於斯際于鉅鐘沒隅川而失矣其處名曰

鐘潭至_レ今_レ稱_レ聖元和二年住持沙門榮真改_レ勝地移_レ院宇于龜戶御慶安中住持沙門榮賢有博捨之譽為_レ猷祖見禮過_レ周賜_レ腹田若干永元香燭前住持法印榮詮專志紹興夏鯨鐘之缺將_レ因_レ之細素適有_レ道人永智者見善勇為憤然後折言募_レ緣於遐邇不憚_レ凡雨之與炎寒振錫勸獎六年干茲_レ今歲乙卯春資緣方具迺命_レ治人採_レ若溪之室鍊_レ曰昆吾之珍_レ劇垂施_レ巧_レ俾_レ文辭而嗣_レ此勝事不任_レ植喜之至遂綴_レ鄙_レ式勒_レ真_レ金銘_レ曰
大矣捷植 為_レ法器_レ先 既成且羨 繁_レ真_レ高懸_レ通_レ徹_レ而_レ壞
厚薄兼金 不_レ祚_レ不_レ懋_レ 侈_レ奪_レ無_レ偏
休哉法器 梵音鏗_レ鉤 霜天目夜 獅吼龍鳴_前 匪_レ名_レ匪_レ播

同山

寶性寺

真言宗

同所

同山

秀明院

同宗

同所

同山

毫光寺

同宗

同所

同山

東向山延命寺

赤坂移徳寺末

同所

同山

顯松山自性院

天台宗

東光院末

登川五の橋町

中興同山權大僧都堅者法印安住誠阿大和尚竹之丞寺云

稻荷社

當寺ハもと境内の鎮座所、不の稻荷比別當殿之慈心小
 菩屋町分齋教狂言大丈元市村竹之丞君年より今迄元と
 好しく知推より佛業に入り自性院の系よりなり願々天宮
 宮城にもより十八九歳の比ハ狂言も上りなり自ら片々自
 性院のいよひて願後の事へもあなまりか来馬方の形に
 いよひ多敷一付もよく妻をむく(何れも)もる牙の如くは
 少くもやせ人と色く誹れとも終り兼引せび止二之歳の比亦
 形いりる新の如く今佛業に入り也も亦殿も自ら信うれば
 師尊系帯を河系の子と世のい養子とて今古丈元と誹り隠
 居候しよとて形いりる人ハ就誹りもして何れも是れわりの分

如りと後抄より後多岐の如き意遠居とありし由縁を求む
日光御門主の御別刀取の如き後多岐とありし京師殿山に登り
て勸孝一殿し出世して後子法印権大僧都の官と昇り殿
山の岩坊安任院の御願と如きありし後多岐の如くして江戸
に於先原の自性院老められ一度故郷に歸り養育仕り
しとありし御門主の如きありし由縁を求む
少く故郷を江戸より自性院に入りて堂社意再建し或百姓
地を買取たりし如く所屬し後先師入寂以後自性院後
任とありし時日光御門主の如く御意を叶はし上野に
ありし御門主の御師範より御意を叶はし故郷依
り人多く寺中より感念ありし御門主の如きありし由縁を求む

御門主の御威光より誰かむ人にも知らしむべきありし由縁を求む
妙安任院の如き高寺の御願とありし由縁を求む
す布代の名傳ありし由縁を求む
今上皇石碑本堂の内安任院本原の下の袋屋の内とありし由縁を求む
眼より見たりし由縁を求む
性後とありし由縁を求む
寛文八年記立也

小梅

住吉ハナトキ年島と云梅ヶ原とむしハナトキを以ての如きありし由縁を求む

小梅と云ふ三園稲荷の社傳よ云

三園稲荷社又田中稲荷社 別當天台宗三園山真珠院延命寺
小梅畧縁起云南社は住古弘法大師の勸請より開基され以
来九百餘歳之文和年中近江の國三井寺住侶源慶僧都再興
之傳教大師の彫刻より此地嚴尊之元慶持多より年久し
方より夜異差を傳へ東上下向し陽田川迎牛島より栴樹の
中より破壊より社有缺として來り老人より好む社より身取れ
も尚社ハ昔弘法大師自ら稲荷の神社を彫刻しよりすよき
涌水罟の中より松一粒を感得すその梅島子生しつた而も梅が系
と云後より大原の世より身取れより社を築り小村梅が一燈
明り人毛堂宇境とあり侍りと語り終るより大原慶壽の

物語の洞と徑し梅の木のももよりよりをてかくねん

春より成色由りし形ん梅が系よりはの玉垣
其夜奇異告りて翌日衆人々集りて共々社禮を為りし
一の壺とありし是れ開くに神体老翁の像より白狐子系り
右の御より宝珠を持たし稲荷の像より其像を得し
時より白狐表りて神体之を圍りてこや多し是ををめり
稲荷大明神と申傳へり僧部別草堂といふあり神体と
地を移りしより時より社を造営し精舎を建立し延
命寺と名付世外業原年天太子堂立し早ぬ梅より元龜年
中壇日記に神社佛圖栴樹より一尺吹とあり天正年中寺屋
を境内社頭の南より引本の如く建立し早ぬ慶長年中大水より

民家半澤流す神祖系も下民改情慈し浅草川の岸を堤と
なりしを此の神社改修して今の地を拓くと云云

牛御前社 牛島 別當 牛宝山明王院寂勝寺

貞觀二年庚辰慈覺大師 勸請 祭神進雄神と云云

神社界記曰當社は本所總鎮守王子神と相殿也土俗傳テ曰此
神ハ昔建長比浅草より牛鬼出く人民を悩み是より同く一

社の神と説く所の牛工神とす故に所も牛流す号すと云
余謂く是安説く當社は牛頭天王の御子と一書に見ゆ江戶砂子

と云寂勝寺に石碑有り近年土中より堀り出す

表に釈迦像あり 奉造主釈迦像一軀

青石大サ四尺余幅二尺斗り厚サ一寸程表貞觀十七年三月日
法華寺新明王院

多く殊勝なる石之崖と云々見まは牛鬼の妄説疑ありと江戸
砂子より採採の地を可く是

神明宮 同所 別當 定朝山神宮寺 浄土宗

江戸砂子云鎮座の舊本去牛の御前同時代に同書云浄土
宗汝門信所和尚武部忠成城下行田太中寺へ銅丈六の佛陀造
立し其鑄形と云々 當寺の本尊成法と云々 四向院の門前
於て勸化より牛年有り 寺功半に叙す後今も門人等即
の志成して為寺再祭す享保十七年の社裏成勢すと云云

秋葉大指現 十葉山満願寺三堂寺末 請地村
十代世福翁 兩社別當

鎮座の年代不詳正應年中の草創と云り 江戸砂子と云

神水 松の樹より涌り諸病を治す

○白鬚大明神

別當 寂藏院

大門口 諸村

自白鹿云江戸惣麻子名所大全といく鎮座の年曆不詳
云々とし住方りの社と云傳ふ尚社江戸唯此社のいかに
勝の名所如くといふ

○三圓山真珠院延命寺

天台宗 浅草末橋前 別當 小橋村

尾不動尊 中之御尾師 中氏彦六作

江戸砂子云世彦六ハ無双の名人と云尾を以て佛像を造るに
この不及不より以正保四年九月高野山蓮華定院の住職盛立
法印祈望し依て俱利伽羅不動の像を造り法印感心の余り
件の旨詔を奉り彦六の事ありて改とせり世者も

い今の椎木屋敷の地を任すとて東都尾師の如き中島氏と
世彦六とくと云々

○宝壽山遍照院長命寺

天台宗 上野末 同所

寺傳云寛永の味 御鷹野の時御不例の事有し小持寺の
井の久より御手あり有し此井不快を有する御手愈りし
當泉寺と云寺号を改め長命寺と云ふなり

釣糸と改められしと云ふ井今と本堂の前より

○牛頭山弘福寺

禪宗 黄壁山 同所

○久遠山常樂寺

牛寶山明王院 寂勝寺 天台宗 上野末

同山

貞觀年中之起立

不動明王 良弁僧正作

十葉山滿願寺 真言宗

三宝院末

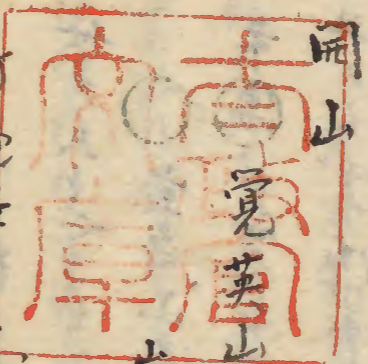
白叢山天祥寺 禪宗

光林寺末 同所

同山

白牛山定林寺 同宗

妙心寺末 同所



清雄寺

嶺松寺

新編江戸志卷之八 大尾



